私の随想録

今回のライター

国分 喜晶さん（長屋）

— Yoshiaki Kokubun —

わたしのいいね！

長屋若者団では大世話を務めた国分さん。30歳の卒業の年、同級生４人で役員をやりました。

「伝統と祭りと若者団」

私の住む長屋地区には、毎年８月14日に開催される長屋盆踊り大会があり、それを主催する長屋若者団に20代前半から入団し、30歳まで所属していました。始めたきっかけは、ただなんとなく同級生が入るから自分もやってみようかなくらいでした。

約２週間の練習期間。先輩たちに太鼓の叩き方やお酒の飲み方を教わりながら練習に励み、自分たちで櫓を組み上げ、いよいよ祭り本番。

自分の叩く順番が回ってきて、櫓に登り、いざ太鼓を叩いてみると・・・そこは全くの別世界の光景でした。きしむ櫓に揺れる提灯。息の合った大太鼓と小太鼓の音に、笛と歌が花を添え、活気ある出店が来場者を出迎え、櫓を中心に踊りの輪が回っているのを見たとたん、「これが祭りか！」とすっかり魅了されてしまいました。

それからは毎年参加し、迎えた最後の年は、若者団大世話をやらさせていただきました。祭り開催までの期間は、準備に追われ大変でしたが、その分祭り本番を迎えたときの達成感は十分すぎるほどあり、やって良かったと心底思いました。この長屋若者団は自分の人生において本当に色々な意味で勉強になり、良い経験をさせてもらったと感じています。人と人のつながり、何かをやり遂げる、作り上げる素晴らしさ、そして伝統ある行事を受け継ぎ、次の世代に引継いでいくことの大切さを。自分が引退してからもう何年も経ちますが、今年も盛大な盆踊り開催に向け、現役長屋若者団には頑張っていただきたいと思います。

＼４月号は私が書きます！／

次回は
松谷英司郎さん（本宮）です

福祉まんが

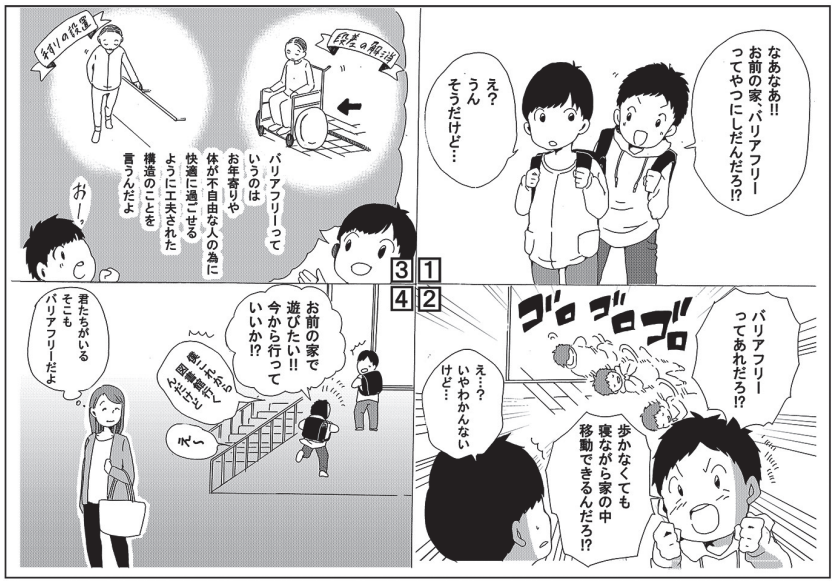
つむぐ こころ おりなすはなし

第7話

原案：あだち地方地域自立支援協議会
生活支援部会

絵：国際アート＆デザイン専門学校
マンガクリエイト科
武田春香／斎藤幸佑

～バリアフリーについて～



※このマンガの内容は一例です。

生活支援部会
小林 優子さん

バリアフリーの意味を考えたことは、ありますか？

元々は、建築用語で「高齢者や障がい者が、不便を感じないで生活できるようにジャマなものを取り除くこと」として、建物内の段差解消などの意味で用いられていました。

でも、現在では、

①建築物や道路、環境や製品などの「物理的なバリア」

②障がいを理由に、能力以前の段階で社会参加の制限を受ける「制度のバリア」

③耳や目が不自由な人が文化や情報に触れるチャンスが限られてしまう「文化・情報のバリア」

④心無い言葉、視線、無関心、差別的な意識など、人々の意識のなかにある「意識のバリア」

これらのバリアを取り除き、〝誰もが暮らしやすい社会環境を整備する〟という考え方を意味するようになりました。

みなさんの「優しさ」で、バリアのない心地よい生活が送れたら良いですね。

あだち地方地域自立支援協議会とは？

本宮市・二本松市・大玉村の２市１村で構成され、地域の障がい福祉に関わる関係者の連携や支援体制などについて協議を行う会です。

問 社会福祉課 社会福祉係 ☎24-5371

住まいる もとみや

―本宮市での暮らし―

■思い出の場所を新居に

今の家のある場所は、大叔母が残してくれた土地で、私が小さかった頃、大叔母が集めたたくさんの本を地域の人に貸し出したりしていた「ひまわり文庫」という図書館のような場所でした。

結婚し、妻の実家の市外に住んでいましたが、「地元の本宮で生活したい」という想いがあり、何年も使っていなかったその場所に家を建て、移り住むことを決めました。

■生活しやすく共働きでも安心

ここは街中でも静かで、買い物も通勤も便利。子どもの遊び場もたくさんあり、とても良いところです。

妻も働きたいと思っているので、市の保育所、幼稚園どこに子どもを預けても第2子の保育料が無料になるのは助かります。

市川 雄史さんご一家

本宮市本宮在住。雄史さんは旧白沢村、妻の理恵さんは三春町の出身。長女の愛依菜ちゃん、長男の愛都くんの４人暮らしです。昨年４月に移住されました。

移住・定住ポータルサイトでは、本宮市内の不動産や仕事、子育て情報、移住者の声などを掲載しています。
http://www.city.motomiya.lg.jp/site/teijyu/